

2021年度 第1回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2021年6月1日（火）13時30分より、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：15名 オブザーバー：23名 計38名（事務局：5名）

○協 議 （1）2020年度事業報告（案）・収支決算（案）について
（監査報告）
（2）任期満了に伴う役員改選について
（3）秋田市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する意見
について

○報 告 （1）秋田市中心市街地活性化基本計画に関する事業等の進捗
①あきた芸術劇場の整備状況および秋田市文化創造館の実施事業について
②ホテルメトロポリタン秋田ノースウイングの開館について
③秋田市中通CCRC拠点施設「クロッセ秋田」について
④千秋公園周辺の活性化に向けた実証実験（キッチンカー出店）について
（2）秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗
①リニューアル版アートなまち歩きの発行について
②鳥瞰図「空から見る秋田市中心市街地のまちづくり」の掲示について
③その他

○情報提供 （1）東北経済産業局からの施策紹介

（発言内容）

【三浦会長の開会挨拶】

- ・ 第2期基本計画の中核事業である秋田市文化創造館では、オープニング事業が9月まで行われており、あきた芸術劇場ミルハスは来年6月に完成予定となっている。それに伴い、広小路をはじめお堀周辺に飲食店やシェアオフィスが出店するなど、新たなにぎわいの呼び水となっている。
- ・ 学生マンションや秋田版 CCRC 拠点施設クロッセ秋田の入居開始等により、中心市街地の人口が社会増に転じるなどプラス要因も見受けられる。今後、秋田オーパの北側、ホテルハワイ駅前店跡地、秋田中央警察署隣に建設予定のマンション3棟が完成することで、居住人口のさらなる増加が期待される。

- ・ 3月末には、千秋久保田町線の対面通行が可能となり、4月27日にはフォンテ秋田の地下にナイスがオープンするなど、中心市街地の利便性が向上している。また、ホテルメトロポリタン秋田ノースウィングが5月31日に開館し、観光客等の受入機能がさらに強化された。
- ・ 今年度が基本計画の最終年度となるが、引き続き、計画に位置付けられる事業を着実に遂行し、中心市街地の活性化を図っていきたい。
- ・ 本日は、2020年度の事業報告・収支決算と、中活計画の進捗状況を国に報告するにあたり、当協議会からの意見を求められているので、それぞれご審議いただきたい。

【協 議】

(1) 2020年度事業報告(案)・収支決算(案)について

事務局より、協議会および芸術文化ゾーンの活用研究会の開催内容や、広小路バザールの開催に向けた調査研究事業など、2020年度の事業報告(案)を説明した後、収支決算(案)について説明した。

後藤監事からの監査報告後、原案通り承認された。

(2) 任期満了に伴う役員改選(案)について

秋田商工会議所の三浦廣巳会頭が会長再任となった。

副会長は、会長の指名により、公益財団法人秋田市総合振興公社の菅原真理事長、監事は秋田市広小路商店街振興組合佐々木清理事長と秋田市都市整備部後藤浩基部長の2名が再任された。

(3) 秋田市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する意見について

秋田市都市整備部都市総務課の横山課長が以下のとおり説明した。

- ・ 基本計画については、法令により、毎年フォローアップを行い、内閣府へ報告するとともに、ホームページ等で公表することが求められている。フォローアップは、内閣府が作成したフォローアップ実施マニュアルに従い、報告書を作成する必要がある。報告書には中心市街地活性化協議会の意見を記載することが求められている。令和2年度における取組の評価として、目標指標の最新値を報告するとともに、フォローアップ報告書に記載する協議会のご意見を確認していただきたく協議するもの。
- ・ 中心市街地全体に係る評価「令和2年度終了時点の中心市街地の概況」について、芸術文化ゾーンにおいては、来年6月の開館を目指し、あきた芸術劇場の整備が進んでいる。今年3月には秋田市文化創造館が開館し、同施設を拠点とした文化創造プロジェクトが始まり、市民とともにまちづくりを進める動きが出てきている。また、昨年8月に秋田駅西口駅前広場、今年3月には都市計画道路千秋久保町線が供用開始となり、駅周辺の利便性が向上した。
- ・ 民間主体の取組としては、昨年10月にCCRC拠点施設クロッセ秋田が完成し、まちなか居住の促進が図られた。
- ・ こうした各種取組が呼び水となり、ホテルメトロポリタン秋田ノースウィングのほか、今後、中心市街地周辺に民間のマンションの建設が3棟、具体的にはオーパの裏、旧ホテルハワイ駅前店のところ、中央警察署の隣に予定されているなど、活性化に向けた取組の効果が発現しつつあると考えている。
- ・ 昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、イベント中止や施設の休館等が相次ぎ、歩行者・自転車通行量等の指標が悪化したほか、秋田駅前商業地の公示地価が2カ年連続の

上昇から横ばいに転ずるなどマイナスの影響を受けた一方、市外への転出が抑制されたことにより中心市街地の人口が社会増となり、プラスの影響もあった。今後は、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えながら、引き続き、にぎわい創出に向けた取組を進めていく必要があるものと考えている。

- ・ 中心市街地の人口増減数について、計画の開始前年度にあたる平成28年度から令和元年度まで減少が続いていたが、令和2年度は増加に転じている。
- ・ 当協議会からの意見について、提出期限の関係で、事前に会長の承認を得て作成した協議会案を内閣府に報告しているが、本日の協議会の結果について、内閣府へ改めて報告する。
- ・ なお、協議会からの意見についての詳細は、この説明の後、事務局から説明いただく。
- ・ 目標達成の見通しとその理由について、基本計画では、5つの目標指標を設定し、活性化に向けた取組を進めている。
- ・ 1つ目の目標指標である歩行者自転車通行量について、令和2年度は25,140人となり、基準である平成28年度の値を下回る結果となった。これは、新型コロナウイルス感染症の拡大による外出機会の減少等による影響を受けてのものと考えているが、ワクチン接種等による事態の収束により通行量の回復も期待されることから、目標達成は可能と見込んでいる。
- ・ 次に芸術文化施設利用者数について、対象施設は、県民会館、県立美術館、千秋美術館、佐竹史料館の4施設としており、あきた芸術劇場開館後は、県民会館に代わり、あきた芸術劇場の利用者数を加えることとしている。これについては、基準値である平成27年度が1日あたり966人であったのに対し、令和2年度は164人となり、目標値から大きく減少してしまっただが、秋田県民会館の閉館および新型コロナウイルス感染症の拡大によるイベントの中止や外出機会の減少などによるものだと考えている。
- ・ 中心市街地における人口の社会増加数について、目標値は計画期間中の5カ年で、社会増加数の累計が240人に達すると設定している。最新値-19人の内訳について、平成29年度が+4人、30年度が-19人、元年度が-41人、2年度が+37人となっており、増加に転じた。秋田市文化創造館の開館や千秋久保田町線の供用開始などによる、中心市街地への期待感の高まりが現れたことなどが要因と考えている。一方で令和2年度の累計値は19人の減少となっており、目標値との差が大きい状況となっている。
- ・ 商業集積促進関連制度利用件数について、創業・起業などのための支援制度の利用件数を計画期間中の5カ年の累計で評価しようとするもの。ここで対象としている制度のうち、空き店舗を利用した新規出店等に対する支援策である「中心市街地商業集積促進補助制度」については、基本計画の認定に併せて制度を拡充し、より使いやすい制度となったことから、当初の想定を大きく上回って利用件数が伸びており、すでに目標値を超える結果となっている。
- ・ 市民活動等施設利用件数について、これはにぎわい交流館やアルヴェなどの貸し会議室等の利用件数であり、件数は対前年度比で減少となっている。新型コロナウイルス感染症による影響で施設利用者数が減少したものであるが、この状況が収束し、秋田市文化創造館を拠点とした文化創造プロジェクトの効果が発現することで、市民活動の創出や交流人口の増加が図られていくものと考えている。
- ・ 前回のフォローアップと見通しが変わった理由について、芸術文化施設利用者数に関しては、あきた芸術劇場の整備により目標達成が可能と見込んでいたが、新型コロナウイルス感染症

の拡大の影響により工期が延長となり、計画期間内に開館できなくなったことから、目標達成が見込まれなくなったもの。

- ・ 人口の社会増加数について、令和2年4月の学生向けマンションの供用開始やクロッセ秋田の竣工による居住者増加により目標達成が可能と見込んでいたが、令和元年度まで社会増減数が減少し続けたことが影響し、目標達成が見込まれなくなったもの。
- ・ このように、目標の達成が見込まれなくなった指標もあるが、残り1年間で、少しでも目標に近づくことが出来るよう、努力していきたい。
- ・ 今後のスケジュールについて、本日の協議の結果について、再度内閣府へ報告する。その後、内閣府で全国のフォローアップ報告書を取りまとめ、6月末頃に本市のホームページで公表する予定である。

続いて、事務局よりフォローアップに対する意見について以下のとおり説明した。

- ・ 秋田市より令和3年5月11日付けで、令和2年度における中心市街地活性化に向けた取組等に対する意見聴取について依頼を受けている。意見書案について、ご審議いただきたい。協議資料の意見書（案）を読み上げ、原案どおり承認された。

【意見・質問】

秋田大学の篠原教授が以下のとおり発言した。

- ・ 今後新たに基本計画を作成する際の参考として、現計画では居住者、夜間人口、流動人口は指標にあるが、日中の就労者や学生等の昼間人口の指標がない。地域活性化の観点からすると昼間人口は重要な指標であり、取り入れて欲しい。都市化する地域では、夜間人口が少なく、昼間人口が多い傾向にある。東京の千代田区は夜間人口が10万人に満たず昼間人口は100万人規模である。

【報 告】

(1) ①あきた芸術劇場の整備状況および秋田市文化創造館の実施事業について

秋田市企画調整課の小杉山課長が以下のとおり報告した。

- ・ あきた芸術劇場について、建物の姿が見えつつあり、6月オープンに向けて整備を進めていく。当施設は、収容人数2,000人規模の大ホール、800人規模の中ホール、160~200人規模のリハーサル室を兼ねた小ホール2箇所を有する。本日配布した施設のパンフレットを関係機関に配布し、完成像を示しながらPRしている。
- ・ 指定管理者のあきた芸術劇場 AAS 共同事業体が、団体利用を主な対象とした予約説明会を6月23日、28日に開催する。案内情報はホームページに記載している。
- ・ 秋田市文化創造館について、開館事業の「200年をたがやす」を開催中であり、3月21日から6月18日までは「つくる」期間、7月1日から9月26日は「みせる」期間として、これまでの製作物を展示し、文化創造館の活用方法を市民等に周知する。展覧会は、生活・産業、食、工芸、美術、舞台の5つのテーマでそれぞれ実施する。

(1) ②ホテルメトロポリタン秋田ノースウイングの開館について

東日本旅客鉄道(株)秋田支社地域活性化推進室の田口室長が以下のとおり報告した。

- ・ 5月31日に当ホテルノースウイングが開館した。2015年9月に秋田県・秋田市と連携協定を締結後、秋田駅前を中心にJRの用地を活用しながらコンパクトなまちづくりに向けた取組を2017年から段階的に進めてきた。ノースウイングの開館で、ハード整備の計画は一旦完了となるが、今後は、秋田県・秋田市や近隣事業者・住民の皆様と一体となり、完成した施設を有効活用し、多くの方に秋田駅前周辺にお越しいただき、にぎわいを形成するソフト面の取組に力を注いでいきたい。

(1) ③秋田市中通CCRC拠点施設「クロッセ秋田」について

(株)北都銀行地方創生室の熊谷理事が以下のとおり報告した。

- ・ 昨年10月に商業区分がプレオープンし、順次テナントがオープンしている。
- ・ 1階は北都銀行、秋田信用金庫、すずらん薬局が入居し、2階は秋田ケーブルテレビ、秋田終活支援センター、暮らしの保健室が入居、3階はふくおか内科クリニック、あきた美容クリニックが入居、4階は歯科、アロマサロンなどが入居している。5階から17階までは分譲マンションとなっている。
- ・ 弊行関連会社である秋田不動産サービスが当施設の管理をしており、社内にCCRC事業室を設置し、当施設の住民やテナントを対象に地域イベントへの案内を行っている。当初予定していた活動については、新型コロナウイルス感染症の影響により思うように実施できていないが、今後も感染状況を見極めながら安全面に配慮し、地域イベントへの参加や住民同士の交流イベントを行っていきたい。

(1) ④千秋公園周辺の活性化に向けた実証実験（キッチンカー出店）について

秋田市建設部公園課の小野課長が以下のとおり報告した。

- ・ 千秋公園をより魅力あるにぎわい空間とするための取組の一つとして、公園利用者の利便性や快適性を高める新たな公共サービスとして、公園を活用した公民連携事業につながる可能性を検証するため、移動販売車による飲食店の営業を昨年9月1日から11月1日に実施した。今回が2度目の実証実験となる。
- ・ 実施場所は久保田町交差点に面する千秋公園東側ポケットパークとし、期間は5月1日から7月31日までの約3か月間とする。1日あたりの出店台数は3台を上限とし、営業時間については、前は16時までとされていたが、出店者から日中より夕方の売上が見込めるとの意見があったことから18時まで延長することとした。
- ・ 出店者について、3月5日から4月2日まで募集し、昨年同数の7者から出店いただくこととなった。うち3者は昨年度も出店した事業者である。5月の出店状況について、出店日数が7日、出店台数が8台となっており、新型コロナウイルスの影響のためか、昨年度よりも出店日数、台数ともに少ない結果となった。6月については、出店日数9日、出店台数12台を予定している。
- ・ 出店者にはアンケート調査を行い、8月下旬に調査結果をホームページで公表する予定である。また、調査結果をもとに、他の都市公園等に対象を広げるかを含め今後の取組を検討する。
- ・ 出店者にはアンケート調査を行い、今後の取組の参考とする。

【意見・質問】

川反外町振興会的那波会長が以下のとおり発言した。

- ・ ポケットパークの社会実験について、実施することでまちの形がどのようなになることを目指しているのか。秋田市のイメージを教えてください。

秋田市公園課の小野課長が以下のとおり発言した。

- ・ 千秋公園を含めた中心市街地のにぎわいの一助となる取組になればと考えている。平成29年から30年にかけて事業者等からいただいた意見を踏まえ、昨年度から移動販売車によるにぎわい創出を千秋公園でできないか検証している。

川反外町振興会的那波会長が以下のとおり発言した。

- ・ 千秋公園を魅力あるにぎわい空間にするため、千秋公園の必要性や利用課題を検証するために実施するのであれば、ポケットパークは適地ではないと思う。また、スポット的なイベント事業としての実施ではなく、首都圏で行われているランチタイムに広場でキッチンカーが出店されているような日常的なシチュエーションをイメージされているとすれば、この場所ではない。現在融雪工事中のため実施は難しいと思うが、千秋公園との繋がりを考慮すると入口に近い中土橋が適している。また、千秋公園から離れてしまうが、駅西口広場での実施が効果的ではないだろうか。実施ロケーションを検討し、出店場所を検討いただきたい。

三浦会長が以下のとおり発言した。

- ・ 那波委員からお話いただいた趣旨で事業着手したはずであり、お祭りの屋台ではなく日常的な利便性向上とにぎわい創出に向けて、ただいまの意見を参考にしながら様々な取組に挑戦していただきたい。

秋田市広小路商店街振興組合の佐々木理事長が以下のとおり発言した。

- ・ 移動販売車はまちづくりの強力なツールとなっている。各自治体でも移動販売車を活用した取組が行われているが、秋田市は昨年度から実証実験を行い、いち早くスタートしているので、このリードを守り、より良い事業となるよう当協議会で議論できればと思っている。様々な検証が必要と思うが、将来的には市内公園の面積の1/3を移動販売車の出店に活用し、買い物弱者を救済するなど思い切った取組を期待する。

三浦会長が以下のとおり発言した。

- ・ 民間から積極的な意見があると思うので、前向きに受け止めていただき、秋田らしい良い事業にしていっていただきたい。

(2) ①リニューアル版アートなまち歩きの発行について

事務局が以下のとおり報告した。

- ・ 2016年から発行している本誌について、芸術・文化に関する催事および施設の情報に加え、お土産品等を販売する商業施設や、ランチ・カフェ等お昼の営業をしている飲食店の情報を追加し、「文化施設に行く前後に、お買い物や食事も楽しめる」紙面構成とした。サイズについても、まち歩きのツールとして活用しやすいよう持ち歩きに適したサイズとした。
- ・ 今後について、7月の次号発行に合わせ、アートなまち歩きウェブサイトを開設予定である。こちらもまち歩きに活用しやすいようにスマホ・タブレットに対応したサイトとする。

(2) ②鳥瞰図「空から見る秋田市中心市街地のまちづくり」の掲示について

事務局が以下のとおり報告した。

- ・ 昨年度作成した鳥瞰図「空から見る秋田市中心市街地のまちづくり」について、東北電力ネットワーク秋田電力センターの仲小路側の壁面に、ラッピング広告を5月6日から掲示している。
- ・ 通行人など一人でも多くの方に中心市街地の魅力を周知できればと考えている。掲示物にはQRコードを掲載し、鳥瞰図のデータを誰でもダウンロードできるようにしている。

(2) ③その他

事務局が以下のとおり報告した。

- ・ 中心市街地等で開催する催事をPRする際、「ぼぼろーど」「にぎわい交流館AU」に設置しているパンフレットスタンドおよび循環バスぐるぐるの車内広告を是非ご利用いただきたい。それぞれの利用要領および利用申込書については、秋田商工会議所ホームページ内の当協議会ページからダウンロードできる。

【意見・質問】

秋田市広小路商店街振興組合の佐々木理事長が以下のとおり発言した。

- ・ アートなまち歩きのウェブサイトについて、情報量や掲載内容を教えていただきたい。
- ・ 利用者の意見が吸い上げられる、利用者間の交流ができる投稿型機能を導入していただきたい。
- ・ ホテル等の客室全室にQRコードのプレートを設置するなど利用者へのPRをお願いしたい。

事務局が以下のとおり発言した。

- ・ これまでは予算の都合上、冊子をPDF化したものを掲載していたが、7月に開設するサイトについては、スマホ版とパソコン版双方作成し、施設や催事を選択すると詳細の情報が見られるようにする。また、各施設のウェブサイトなどとリンクするようにするほか、エリア毎に掲載情報が絞り込みされる機能も導入するなど利用しやすいサイトとしたい。
- ・ 投稿型機能などサイトの内容については、明日開催する芸術文化ゾーン活用研究会において、意見をいただきながら今後検討させていただく。

【情報提供】

(1) 東北経済産業局からの施策紹介について

東北経済産業局商業・流通サービス産業課の伊藤課長が国の施策を紹介した。

(紹介した施策)

○地域の持続的発展のための中小事業者等の機能活性化事業

○GoTo 商店街事業

○中小企業生産性革命推進事業

○中小企業等事業再構築促進事業

閉 会